

肥後医育振興会に期待する

地域医療の発展に向けて



一般財団法人化学及血清療法研究所
理事長・所長 宮本 誠二

一般財団法人肥後医育振興会は、平成八年の熊本大学医学部創立百周年を記念して、熊本大学医学部同窓会（熊杏会）及び医学部後援会によって設立され、以来十七年に亘って熊本医学教育・交流に大きな貢献をしてこられました。平成二十二年には熊本県第一号の公益財団法人として認定され、益々活発に事業を展開されているところで、医学教育・研究に対する助成、医学の国際交流への支援などの幅広い事業を通して、地域医療の向上と県民の健康増進に寄与されていることに対し、心より敬意を表します。

市民公開セミナー「肥後医育塾」の開催は、多くの県民に認知され、全国的にも高い評価を受けるイベントとなり、弊所としても大変光栄に感じております。

弊所は、大正十五年に熊本医科大学内に設置された財団法人実験医学研究所を前身としています。昭和二十年に、戦争の災禍で中断された同研究所から、「発展する医学の成果を直ちに社会に活用して医事衛生の発展を期す」という志を引き継ぎ、新たな財団法人として化学及血清療法研究所が創設されました。以来、この熊本において、実学と自立の精神の下で、ワクチンや血液製剤を開発・供給する国内でもユニークな医薬品メーカーとして、医療の発展に貢献して参りました。これからも熊本の地に

しっかりと根を下ろし、熊本から世界へ発信していく企業として活躍していくと共に、地元熊本の医学と地域医療の発展に貢献していく所存です。

既にご承知の通り、医療を取り巻く環境は目まぐるしく変化し、また複雑化しており、地域医療における課題も山積している現状があります。この解決のためには、行政・医療機関・医療スタッフ養成機関・そして民間の事業者が、それぞれの得意とする分野で協力しあいながら対処していくことが重要であると考えています。熊本は歴史的にも医学および医療の発展に大きく関わってきた背景があります。全国各地で地域医療の崩壊が叫ばれる中、熊本は医療環境に恵まれ、医療連携も進んでいると実感しています。熊本が持つこの基盤と力をさらに充実・進展させていき、最も優れた地域医療のあり方を確立し、その実績を全国に発信していけるよう、総力を結集していかねばなりません。

そうした中で、貴会の存在意義は非常に大きく、貴会が果たす役割の重要性は益々高まっています。弊所も、微力ながら貴会の事業に協力させて頂き、地域医療の発展に貢献していきたいと思っております。最後にになりましたが、貴会の諸活動を通じて、熊本の医学・医療が今後ますます発展していくことを祈念致します。

財団からのお願

「財団の活動充実と発展のために
維持会員の更新と新規入会をお願いします」
(平成二十五～二十七年度分)

一昨年の東日本大震災に続き、昨年七月には、九州北部豪雨が起り、被災された皆様ならびにご家族に心よりお見舞いを申し上げます。

熊本医学教育は、再春館の創設（一七五六年、宝暦六年）を起源に伝統ある歴史をもち、その歴史において北里柴三郎をはじめとして多くの医師、医学者、教育者が育ち、国内外で大きな貢献をしてきました。その背景のもとに、肥後医育振興会は、未来の医療を担う人材を多く育成することを理念として平成八年五月に設立されました。

肥後医育振興会は平成二十二年から公益法人として認められ、医療人育成、県民の健康増進、地域医療・医学の振興、医学研究助成事業（公募による若手研究者等の助成金支給）及び医学国際交流支援事業（公募による外国人留学生奨学金支給）、市民公開講座「肥後医育塾」の開催、生活情報誌「あられんじ」の医学・医療関連記事の執筆及び監修、今後の熊本県における医療人育成の在り方を提言する「熊本県医療人育成総合会議」の開催など、熊本から全国へ、世界へと飛躍する医療人の育成と医学情報の発信を行うために活動しています。

このような活動は、ご賛同いただいた皆様方の維持会費（賛助会費）や寄附金によって運営されています。

さて、この維持会員制度は三年毎の更新制度になっており、本年度はその更新の年であります。昨年度までの会員数は六一七名でありましたが、本財団の予算上の会員数は六〇〇名としており、現在三六四名程であり、既に会員加入の皆様方には厚く御礼申し上げますが、目標の六〇〇名にはまだまだほど遠い状況です。今後、皆様は次世代の医療を担う人材のために医育助成がいただけましたら、本財団が安定した活動を継続できるものと信じています。

天災が続く、景気が低迷している中、会員の皆様も、これらの社会情勢により、厳しい環境で努力されていることと拝察

いたします。このような環境においても、私たち医療人は、常に最高の医療を提供する責務があり、また、医師の育成と医学の発展に努力を継続しなければなりません。

つきましては、これまでの維持会員の先生方には、何とぞ引き続き維持会員としてご更新いただきまして、本財団へのご協力ご支援をお願い申し上げます。また、新しく維持会員として本財団の活動にご参画をお願い申し上げます。

熊本大学医学部OBの先生方、指導的役割の医師、研究者はもちろんのこと若手の医師諸氏も今後の本財団発展のために、是非お力添えをいただきたく切にお願い申し上げます。若手医師にとって、年会費五千円は大変なご負担とは存じますが、医学部学生や研修医にも肥後医育振興会は援助をしております。本会とおして若手を育成し、肥後医育の伝統を継承することに貢献いただけましたら幸いです。

維持会員には、いつでも、どなた様でも申し込みいただけます。個人年会費一口五千円、団体一口三万円です。会員登録申込書は、本財団のホームページからダウンロードされるか、左記までご連絡をお願い申し上げます。

なお、一昨年から本財団の維持会費は、税務当局から税法上、寄附金として認められており、個人の所得税や住民税の税額控除について優遇措置を受けることができることを申し添えます。

〒八六〇一〇八一 熊本市中央区本庄二二一 肥後医育記念館内
公益財団法人 肥後医育振興会
TEL&FAX 〇九六一三三二一五四二五
ホームページ
http://www.19higo.com/

E-mail 19higo@rc.kuh.kumamoto-u.ac.jp
財務担当理事 興梠 博次